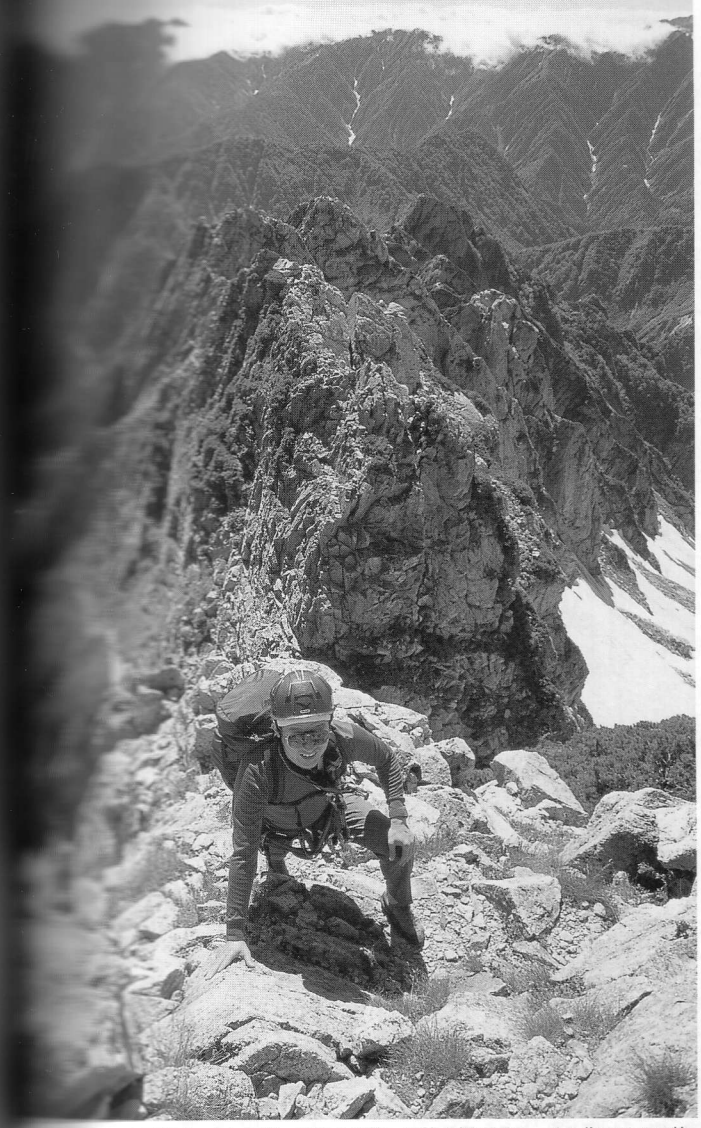
雪と岩の殿堂、剱岳入門のⅥ峰Cフェースから八ツ峰の岩稜を縦走してみよう

［剱岳Ⅵ峰Cフェース剣稜会ルート～八ツ峰上半縦走～本峰］

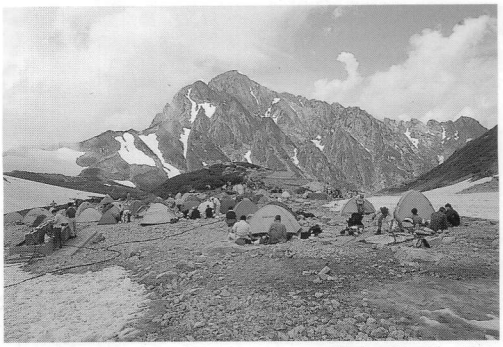
11～13時間（剱沢別山平から日帰り）

日本三大岩場は、谷川岳一ノ倉沢、剱岳、穂高岳の3つだが、剱は一ノ倉、穂高とはまた違った響きがあるように思う。近代登山の黎明期、剱岳は1907年に陸地測量部による登頂が最も古い記録だが、険しい山容から槍ケ岳や穂高よりもだいぶ後のことになった。登路は長次郎谷で、案内人宇治長次郎の名が冠された。この時、頂上北方の岩窟に槍の穂と錫杖の頭が発見され、すでに登頂されていることが分かったが、誰がいつ最初に登ったのかは全く不明のままだ。



Ⅶ峰ピークから登ってきたⅥ峰、Ⅶ峰を振り返る。その先には八ツ峰下半部も見える。

時代が変わり現在、一ノ倉や穂高において時代の先鋭達の視線は、高難度フリークライミングやアメリカンエイドラインなど、クライミングそのものに注がれている。一方、剱は秘境黒部を足元に、剱沢大滝、後立山からの黒部横断、北方稜線縦走など、登って帰るために全精力をかけて当るスケールの大きな登山の舞台として岳人の憧憬を集めている。奥深い大きな山という印象は現代でも変わっていない。冬剱や黒部の奥深い沢は真剣勝負の世界だが、夏の剱入門ルートは比較的気軽に登れ、敷居はそんなに高くない。



剱沢別山平のキャンプ場はロケーション最高の別天地。剱本峰はもちろん、源次郎尾根やその奥には八ツ峰も望める。